

令和4年度 第2回 宇都宮市民大学運営協議会

日 時 令和4年8月4日（木）
午後3時～午後4時（予定）
会 場 人材かがやきセンター研修室
（中央生涯学習センター5階）

次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 報告事項

・報告第1号

令和4年度宇都宮市民大学前期専門講座の実施状況について・・・資料1

・報告第2号

令和4年度宇都宮市民大学後期専門講座の実施予定について・・・資料2

(2) 協議事項

・協議第1号

令和4年度宇都宮市民大学公開講座について・・・・・・・・・・資料3

・協議第2号

令和5年度宇都宮市民大学の実施方針について・・・・・・・・・・資料4

3 そ の 他

・宇都宮市民大学運営協議会の委員改選について

4 閉 会

宇都宮市民大学運営協議会委員名簿

任期：宇都宮市民大学運営協議会運営要領第4条の規定による期間
(令和2年9月1日～令和4年8月31日)

令和4年4月1日現在

No.	氏名	所属団体等役職
1	柴田 慎司 <small>しばた しんじ</small>	帝京大学 宇都宮キャンパス 事務長
2	江田 壮一 <small>えだ そういち</small>	宇都宮短期大学 事務局長
○ 3	丸山 純一 <small>まるやま じゆんいち</small>	宇都宮市民大学講座企画運営選考委員 文星芸術大学 副学長
◎ 4	島田 繁雄 <small>しまだ しげお</small>	宇都宮メディア・アーツ専門学校 校長
5	川島 育郎 <small>かわしま やすお</small>	株式会社栃木放送 報道制作局長
6	阿部 ゆり <small>あべ ゆり</small>	株式会社下野新聞社 編集局総務部長
◇ 7	野中 正知 <small>のなか まさとも</small>	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 常務理事兼事務局長
◇ 8	赤羽 幸雄 <small>あかばね ゆきお</small>	とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・ら センター長
9	細川 みち子 <small>ほそかわ みちこ</small>	宇都宮市生涯学習センター運営審議会 委員
10	大山 真一 <small>おおやま しんいち</small>	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ

◎ 会長 ○ 副会長 ◇ 監事

令和4年度宇都宮市民大学前期講座の実施状況について

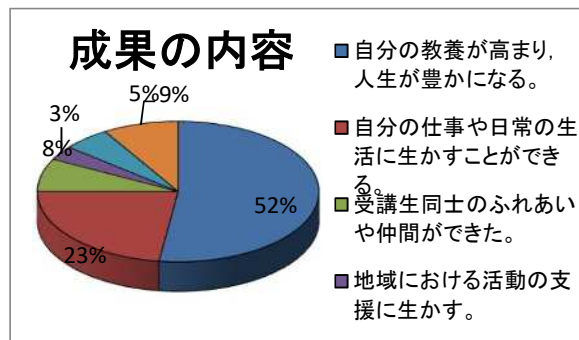
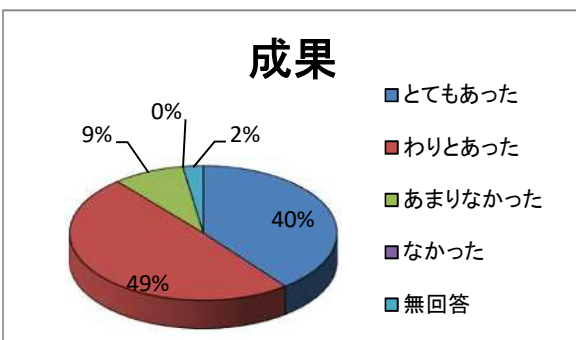
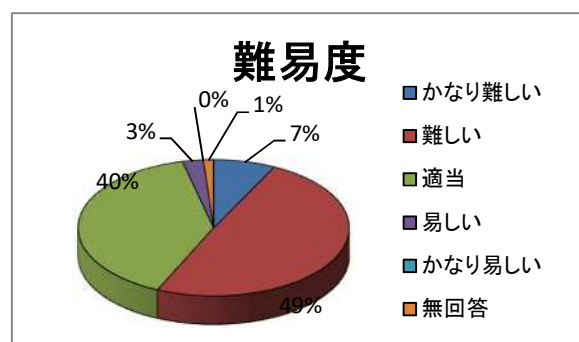
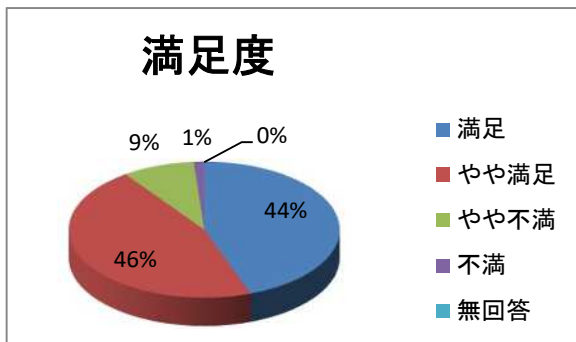
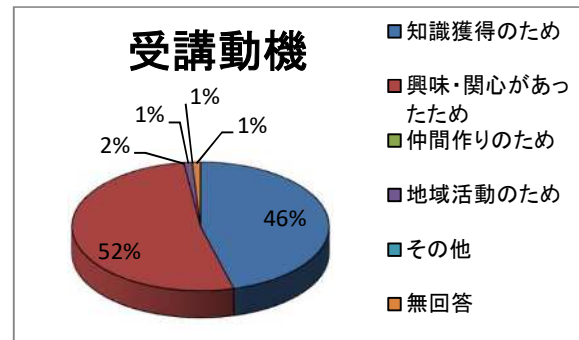
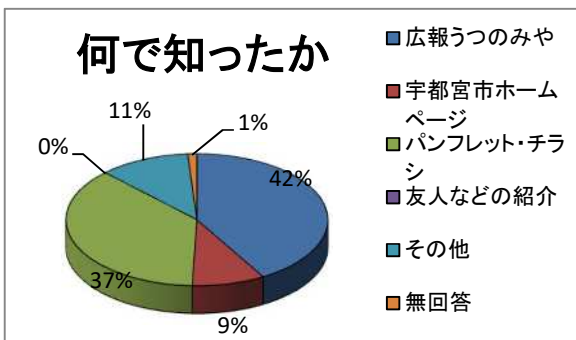
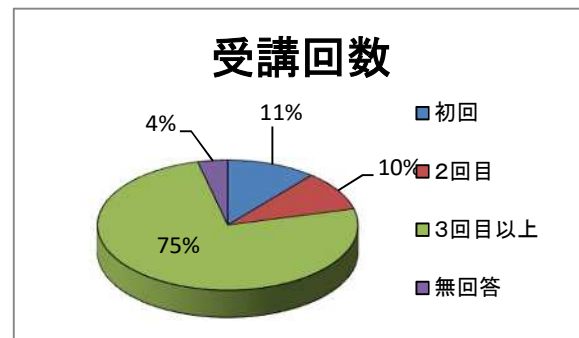
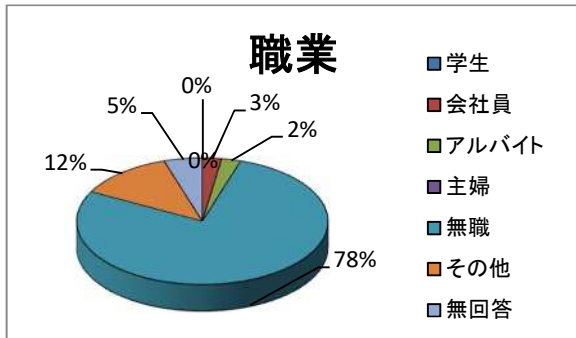
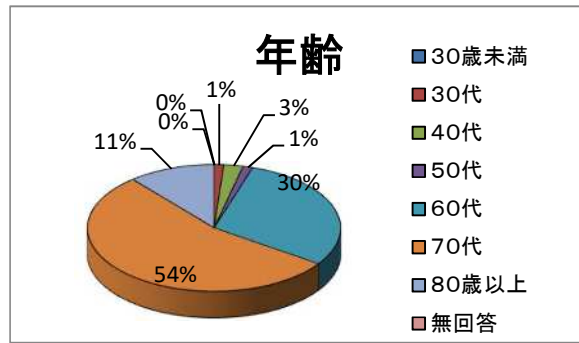
資料1

コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講者数	修了者数 (修了率)	講座の評価	(参考)受講者の感想・意見
I	太平記と南北朝の謎！ ～戦乱を招いた後醍醐天皇と足利尊氏の理想～ (全8回)	栃木県立博物館 学芸員 山本 享史 宇都宮短期大学 教授 江田 郁夫	5/23～ 7/11	(50) [108] 56	54 (96.4%)	九州から上洛して京都を制圧し、持明院統の光明天皇を立てた足利尊氏と、京都を逃れて吉野に移った大覚寺統の後醍醐天皇の対立について時代の流れをもとに学んだ。宇都宮にゆかりのある武将たちの人柄や戦との関わりも学び、新たな発見のある講座となった。NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送時期と重なっており、講義の導入前日のドラマの展開を振り返ってから講義が始まるなど、受講生にとっても関心を持ちながら楽しく学ぶことができる講座であった。	・NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送が重なっていたことで、より関心をもって楽しく学ぶことができた。 ・様々な史跡、文化財などを目にしたときに楽しみが増えた。 ・郷土に係りのある人物の話がよかった。 ・宇都宮城の案内をしているので、その内容に役立てていきたい。 ・地元の歴史、今日までの経緯を知ることは、市民として大変重要だと思う。子どもたちにも伝えるべきだと思う。
I	宇都宮城下の社寺を探る ～宇都宮の歴史的景観～ (全7回)	宇都宮市文化財保護審議委員会 委員 大嶽 浩良	5/24～ 7/5	(50) [96] 57	52 (91.2%)	明治初めに神仏分離令が出されたあとも、神棚と仏壇が同じ家に祀られているなど、民衆の生活の中には神仏習合が根付いていることを学んだ。また、全7回の講義を通して、宇都宮市にある神社と寺院の成り立ちや宇都宮氏との関係を、『下野国誌』などの史料をもとに掘り下げた。受講後に自分の足で寺巡りをする受講生もおり、講師が実際に足を運んで得た、文献に落とし込まれていないエピソードが受講生にとっても刺激になったようだ。	・街を歩いていて目にするお寺を、今まで素通りしていたが、これから目についた時には立ち寄って「いわれ」などを確認したい。 ・宇都宮にかなり古い社寺が多数あったことに驚いた。 ・大変貴重な資料に触れることができよかった。 ・学んだことの関連図書を読んでいきたいと思った。 ・大嶽先生の入念な下調べと各書物の読み込みで大変感銘を受けるとともに、歴史が横に広がっていく面白さを感じた。 ・敷居の高かった寺院の歴史を知ることができた。
II	未来の世界のために！ ～より良い環境を作るために、今、私たちができることとは～ (全8回)	帝京大学理工学部バイオサイエンス学科 教授 篠村 知子 帝京大学 名誉教授 鮑本 一裕 帝京大学理工学部バイオサイエンス学科 教授 柳原 尚久 株式会社三菱ケミカルホールディングス 准教授 朝比奈 雅志 マネージャー 武村 清和 うじいえ自然に親しむ会 会長 高橋 伸拓	5/27～ 7/15	(50) [46] 41	36 (95.6%)	温暖化・汚染・生物種の激減等の地球環境問題の現状をあらためて認識した後、地球にやさしいエコ生活やケミカルリサイクルについて学ぶとともに、ユーグレナ等の微細藻類やゲノム編集食品、昆虫食や培養肉等、未来の食料へ向けて貴重な資料をもとに学んだ。豊かな自然環境を次世代へ引き継ぐために私たちが今、行動すべきことを考えることで、未来の世界へ思いを馳せる講座となった。受講生の関心度も高く、6人の講師もそれに答えるべく、熱量の高い講義となり、時には地球や動物たちの現況に涙するシーンも講師、受講生共に見受けられた。	・将来の食糧不足について、真剣に考えなければならないと恐れを感じた。 ・様々な講師の話をお聴きすることができてよかった。 ・個人でも実践できることが今まで以上にすることも学んだので、早速実践しようと思う。 ・環境問題はもう身近に危機が迫っているのを感じた。 ・孫たちに問題提起や話し合いが少しでもできるようにしたい。 ・社会人になると新しい知識を得る場がなくなるので、このような機会がありありがたかった。
II	幸せな暮らしのためのデジタル化 ～現代社会のITトレンドを学ぼう～ (全6回)	帝京大学理工学部 情報電子工学科 教授 小川 充洋	5/28～ 7/2	(50) [48] 45	43 (95.4%)	携帯電話・スマートフォンの進化、インターネットと社会、進化する人工知能、拡張現実と仮想現実、仮想通貨など、現代のデジタル関連のキーワードを取りあげ、これまでの研究や社会との関わりについて詳しく学んだ。専門的な内容であるため、難しいと感じる受講生も多かったようだが、受講後に資料を家で読み直したり、疑問点を講師に質問したりと、受講生の関心の高さが分かる講座であった。講師が紹介したイベントに実際に足を運ぶ受講者もおり、新しい学びのきっかけとなった。	・社会で目や耳にするデジタル関連の言葉への理解ができた。 ・先生が紹介していたメディア芸術祭で体験したことで、より理解が深まった。 ・難しかったが、家で資料を読み直し、先生の説明を思い出して少しは理解できた。大変勉強になった。 ・ネットワークやデバイスなどの知識が大変分かりやすくよかった。 ・デジタル化が、これほど幅広く、奥の深いものだと知らなかった。これを機にさらに学んでいきたい。
III	「古今和歌集」「新古今和歌集」の世界 ～和歌から学ぶ日本の伝統文化～	立正大学文学部 教授 渡邊 裕美子	5/30～ 7/4	(50) [66] 58	55 (94.8%)	平安・鎌倉期に編さんされた「古今和歌集」「新古今和歌集」の成立の流れから始まり、数々の和歌の魅力を丁寧に紹介した講座。受講生たちが日本人の心の奥にある世界を呼び起こされたのは、毎回、帰り際の表情から読み取ることができた。関心の度合いは受講生それぞれであるが、口々に和歌の持つ世界のより深いところへ誘われたとのことであった。これほどまでに受講生の心を揺るがすのは、講師の和歌に対する造詣の深さと多くの方に和歌の魅力を理解してほしいという強い想いであろう。渡邊教授のお話しをもっと聴きたいという声もあがった。	・日本語の言葉の響き、美しさを再発見しました。 ・古今和歌集を読み直してみようという気持ちになった。 ・講座を通して、趣味の短歌に対して、ますますやる気が湧いてきた。 ・古典を学ぶには、古文書が読めるとな面白いと思う。 ・屏風歌等を実際に見てみたいと思った。 ・「古今」「新古今」だけでなく、万葉、百人一首、西行と内容の広がりがあり、面白かった。 ・マスクをしているからか、講師の声が少し聞き取りにくかった。
III	暮らしのなかの歴史と文化 ～江戸庶民と平安貴族の日々をもとに～ (全6回)	宇都宮短期大学 宇都宮共和大学 非常勤講師 寺内 由佳 宇都宮短期大学 客員教授 東京学芸大学 名許教授 河添 房江	6/3～ 7/15	(50) [53] 48	42 (87.5%)	江戸庶民と平安貴族について、2人の講師から「暮らし」という視点で講義をいただいた。 江戸庶民については、城下として栄えた宇都宮の「商い」や「祭り」について詳しい講義があり、今に続く商家の名前や、商い高による番付なども取り上げられ、受講生は江戸期の宇都宮の様子をとっても身近に感じる講座となった。 平安貴族の暮らしについては、主に「源氏物語」をもとに、当時の貴族階級で行われていた年中行事や有職故実を中心に講義があり、源氏物語や和歌への興味を深める機会ともなった。	・江戸時代の旅のこと、菓子のこと、古着屋のことなど今につながっている店などもあり身近な話として感じた。 ・寺内先生の講義は、自分の足で歩いて得た資料が面白かった。 ・改めて、源氏物語をじっくり読みたくなった。 ・宇都宮市の昔の商店街などが分かり、大変興味深かった。 ・日常生活、男女の情など、源氏物語が読み継がれる理由が分かった気がする。和歌や俳句がコミュニケーションツールであったと納得した。
【コース名】 I 郷土を愛する「宇都宮学」コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る文化・教養コース				募集定員	300人	【総合的な評価】 6講座中3講座は定員を超える申込みがあり、キャンセルを見込むなど可能な限り定員を増やし受講決定をした。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、3密を回避するなど各種の感染防止策を講じ実施することができた。 修了率は例年と同水準の92.4%となった。また、受講者アンケートに関しても、成果が「とてもあった」「わりとあった」との肯定的な回答が、概ね全体の90%を占めた。各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供ができたと考えられる。 【今後の課題】 引き続き、受講者ニーズの高い歴史や文学等の趣味教養的な講座のほか、現代的課題や旬の話題を取り入れた講座を実施していく必要がある。	
				応募者数	417人		
				受講者数	305人		
				修了者数	282人		
				修了率(修了者/受講者)	92.4%		

※修了者数は、4分の3以上の出席者

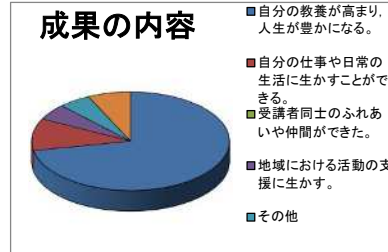
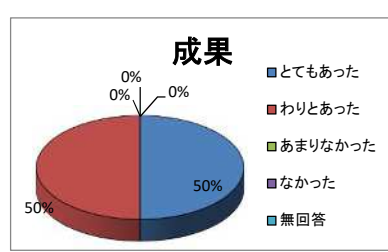
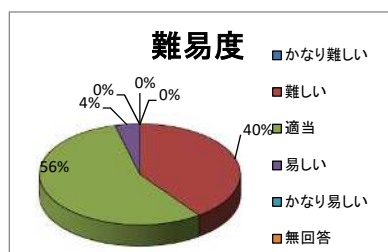
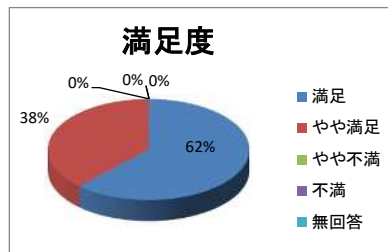
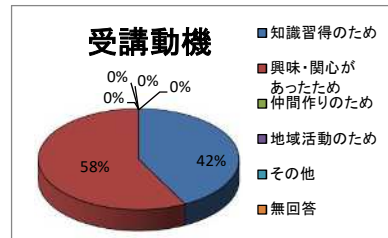
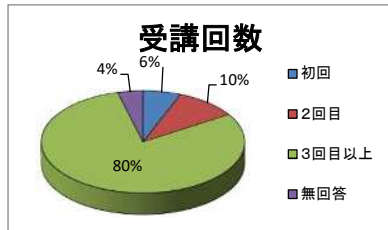
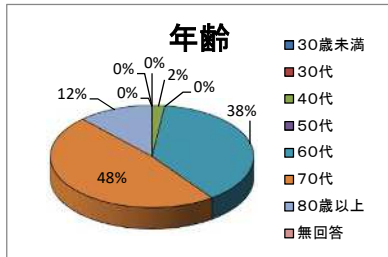
令和4年度宇都宮市民大学前期専門講座アンケート

1 受講者数 305人
 2 アンケート回答数 237人
 3 アンケート回収率 77.7%

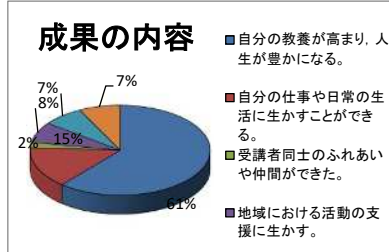
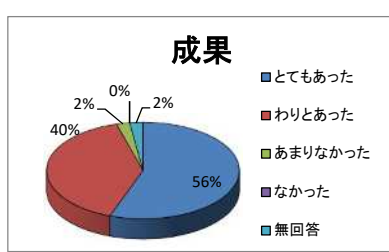
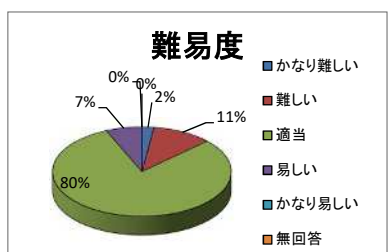
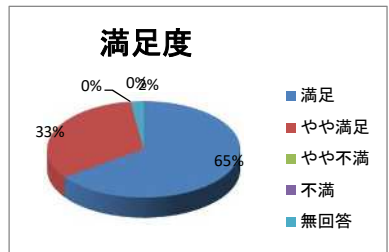
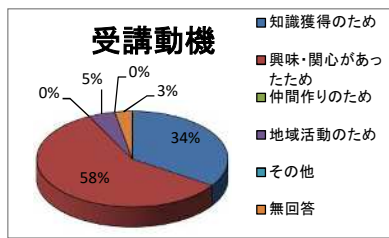
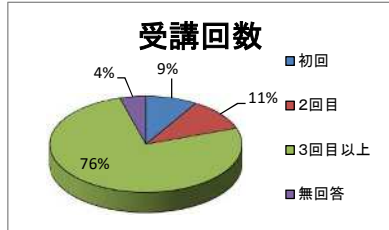
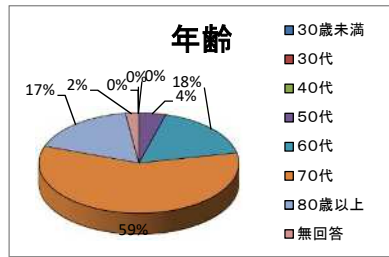


令和4年度宇都宮市民大学前期専門講座アンケート

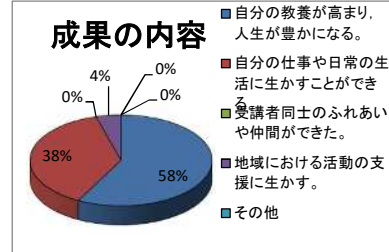
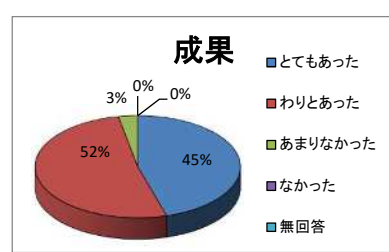
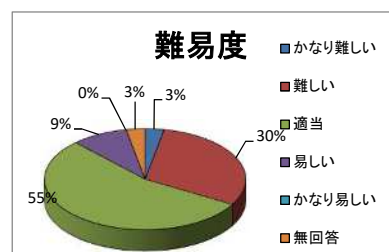
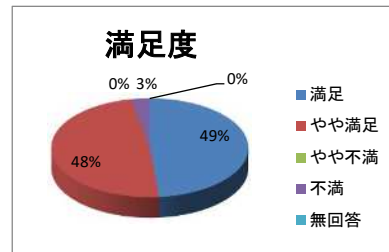
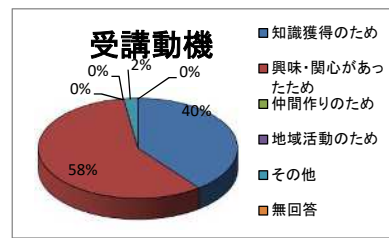
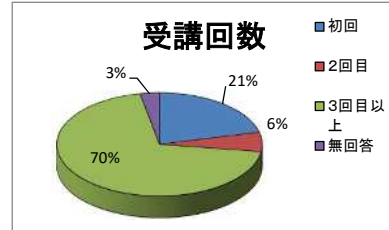
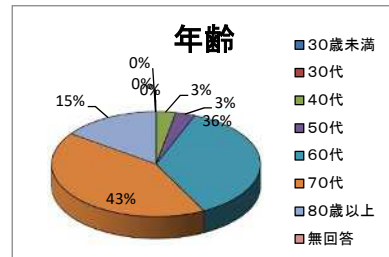
1 太平記と南北朝の謎！



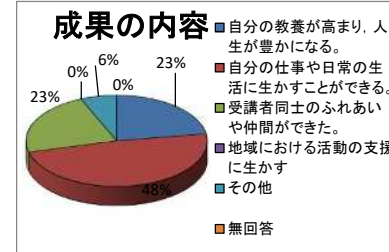
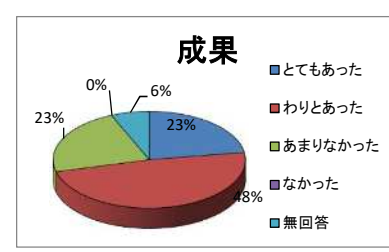
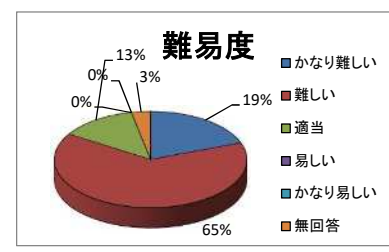
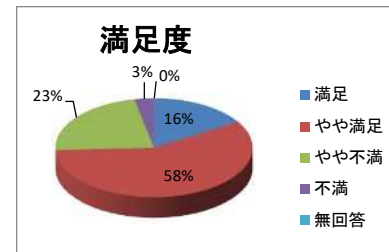
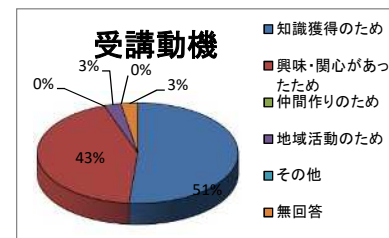
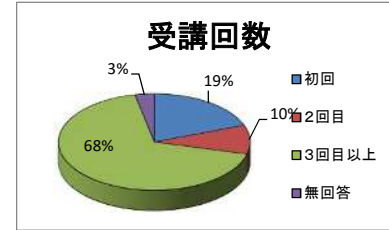
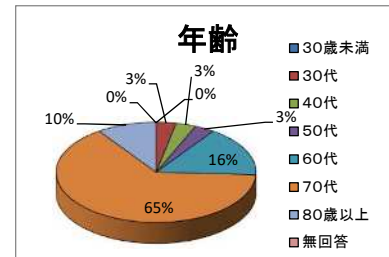
2 宇都宮城下の社寺を探る



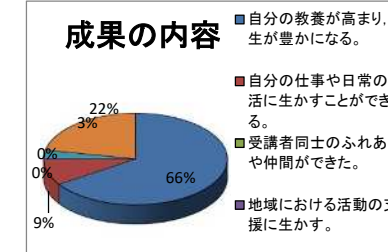
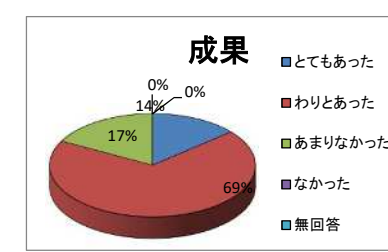
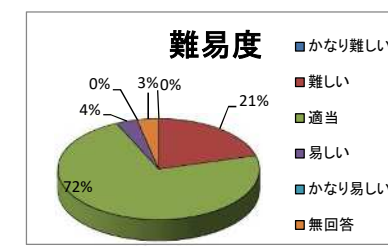
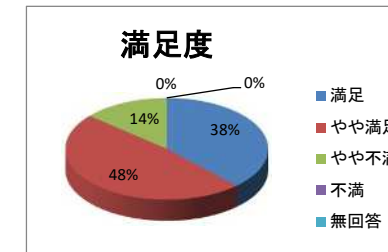
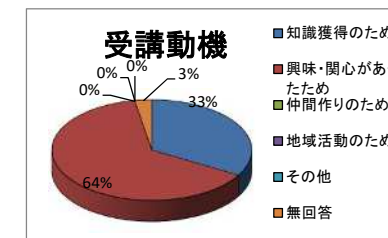
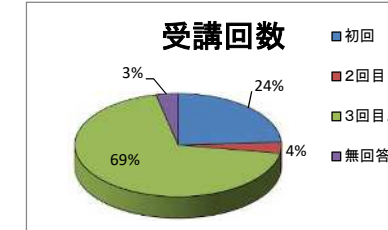
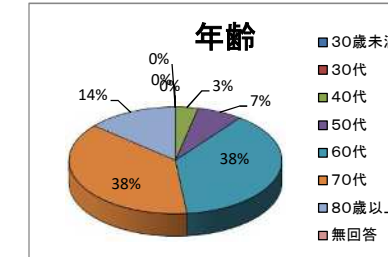
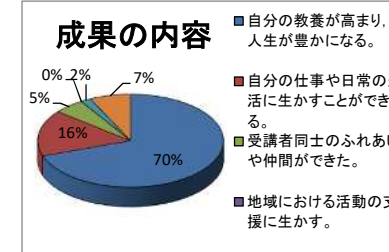
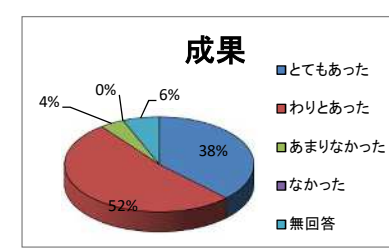
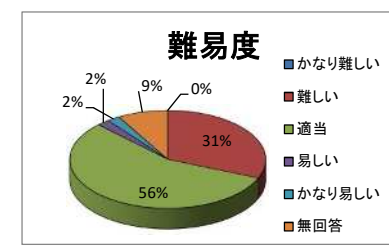
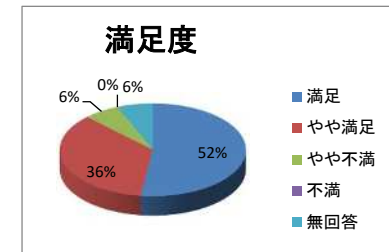
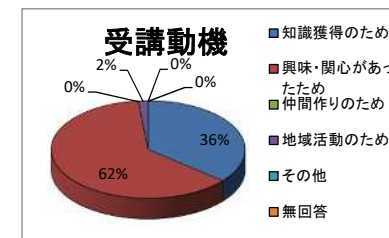
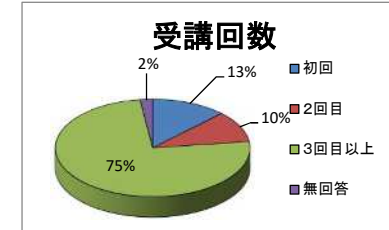
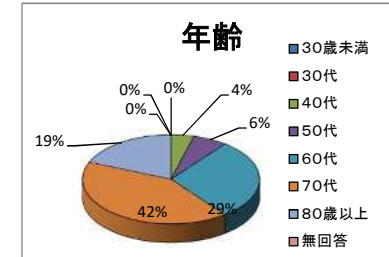
3 未来の世界のために！



4 幸せな世界のためのデジタル化



5 「古今和歌集」「新古今和歌集」の世界 6 暮らしのなかの歴史と文化



令和4年度宇都宮市民大学後期専門講座の実施予定について

講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座を4講座（No.2, No.4～6）、大学連携講座【宇都宮大学】を1講座（No.4）、事務局企画枠【リクエスト講座】を1講座（No.1）の計6講座を実施する。

なお、各専門講座の初回冒頭に、開講式として「学長メッセージ」DVD（2分程度）放映や企画者の紹介などを行う。

また、実施にあたっては、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。

- | | | |
|---|------|-------------|
| 1 | 開催期間 | 令和4年10月～12月 |
| 2 | 開催回数 | 6回～8回 |
| 3 | 定員 | 50名 |

【後期専門講座内容】

No.	講座名	開催期間 (開催曜日・時間帯)
1	I 郷土を愛する「宇都宮学」コース（全8回） 名城に名将有り！下野の古城【リクエスト講座】 ～館から城郭へ、中世の城の役割～	10月17日～12月5日 (月曜日 午前)
2	I 郷土を愛する「宇都宮学」コース（全7回） 宇都宮のシンボル二荒山神社 ～由来・歴史と宇都宮氏～	10月7日～12月2日 (金曜日 午前)
3	II 今を読み解く現代社会コース（全7回） 人生100年時代のウェルネスを考える 【宇都宮大学連携講座】	10月18日～12月20日 (火曜日 午後)
4	III 暮らしを彩る文化・教養コース（全6回） 仏像の魅力を探る ～鎌倉御家人の信仰と造仏～	10月27日～12月5日 (木曜日 午前)
5	III 暮らしを彩る文化・教養コース（全6回） 浮世絵の魅力を知る ～春信・写楽・歌麿・北斎・広重・国芳を極める～	11月4日～12月9日 (金曜日 午後)
6	III 暮らしを彩る教養コース（全6回） 再入門！！楽しい科学II ～予想して実験で確かめる～	10月15日～11月26日 (土曜日 午前)

※ 講座の実施会場は、人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター5階）

※ 午前：10時から正午、午後：2時から4時

令和 4 年度宇都宮市民大学公開講座について

令和 3 年度は、吉川真氏（JAXA はやぶさ 2 ミッションマネージャ）による講演会の開催を予定していたが、「新型コロナウイルスまん延防止等重点措置」の期間が再延長されたことに伴い、講師派遣が困難となったことから、開催を中止した。定員 500 名に対し、510 名の申込みがあり、そのうち 410 名が新規申込者、150 名が 19 歳以下であるなど、青少年を含めた多くの市民にとって関心が高い内容であった。

令和 4 年度も、市民大学の更なる周知と認知度向上を図るため、前年度の申込者の状況結果を踏まえ、多くの方々に関心を持たれるような内容とし、下記のとおり実施する。

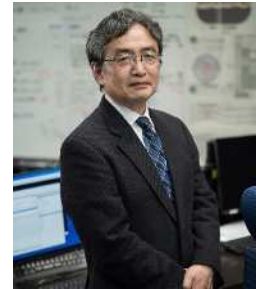
- (1) 実施日 令和 5 年 2 月 25 日（土）
時間：10 時～又は 14 時～
※講師の都合等により変更の可能性あり
- (2) 会場 宇都宮市文化会館小ホール
- (3) 受講料 1,000 円（予定）
- (4) 内容 各分野の第一人者（著名人等）による講義等
裏面【講師候補】参照
- (5) その他 会場に集う参集型と、オンライン型（オンラインによる受講）とを組み合わせた手法（ハイブリット型）で実施する。**別紙 3**
- (6) 今後のスケジュール
 - 令和 4 年 12 月 広報うつのみやにて周知・募集
 - 令和 5 年 1 月 受講決定通知発送
⇒ 受講料の納付確認後、チケット等を発送
 - 2 月 25 日 公開講座実施

【講師候補】

◎ 吉川 真（栃木市出身）

- ・小惑星探査機「はやぶさ2」のミッションマネージャ
- ・宇宙航空研究開発機構（JAXA）准教授
- ・令和3年度宇都宮市民大学公開講座 登壇予定

※講師の日程調整は、講演日の6か月前～3か月前からのため、
8月25日以降に調整



◎ ティモンディ 高岸 宏行（愛媛県出身 済美高校→東洋大学）

- ・お笑い芸人（写真右側）
- ・令和4年7月19日 栃木ゴールデンブレーブス（BCリーグ所属）に入団
- ・芸人と野球選手の二刀流に挑む
- ・自身のキャッチフレーズである「やればできる」を体現



https://grapecom.jp/talent_writer/timon-d/

◎ 紗栄子（大田原市在住）

- ・モデル、タレント
- ・牧場「NASU FARM VILLAGE」経営
- ・緊急事態宣言が明けて牧場に行った際、
牧場の危機を知って再建を決意



<https://crea.bunshun.jp/articles/-/35520>

◎ 隈 研吾（神奈川県出身）

- ・建築家
- ・国立競技場を設計
- ・宇都宮駅東口で建設中のコンベンション施設の
デザインを監修



<https://kkaa.co.jp/about/kengo-kuma/>

公開講座におけるオンラインを用いた講座の開催について

2年連続で中止となった公開講座の実現に向け、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等に左右されない手法により実施する。

1 実施手法

従来の参集型に加えて、会場に足を運ぶことができない人などにも学習機会を提供できるよう、オンライン型（オンラインによる受講）を併用したハイブリット型による講座を開催する。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言等の行動制限が求められた場合には、オンラインのみの形態に切り替える。

	行動制限が出されていない場合	行動制限が出された場合
実施形態	ハイブリット型 (参集型+オンライン型)	オンライン型のみ
ZOOMプラン	有料版 Pro ライセンス	有料版 Pro ライセンス +追加オプション (大規模ミーティング)
金額 (月額)	2,000 円	2,000 円 +9,800 円 (大規模ミーティング) =11,800 円
接続人数	100 人まで (ホスト含む)	500 人まで ・45,000/月で1,000 人まで拡大可

2 オンライン型導入の課題

- ・当日の安定的な講座の開催できるよう、環境を整える必要がある。
→関係機関との調整
- ・受講者へのサポート（接続できない、インストールできないなど）
→受講決定通知発送時に、Zoomの利用方法を記載した手引きを同封する。

令和 5 年度宇都宮市民大学の実施方針について（案）

1 令和 5 年度市民大学について

(1) 実施方針

市民大学事業については、本市の社会教育分野における基本計画である「第 3 次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき、高等教育機関との連携による高度で専門的な学習ニーズに応えるとともに、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組む。

特に、令和 5 年度は、宇都宮市民大学が開学 30 周年を迎えることから、あらゆる機会を捉えて 30 周年を迎えたことの周知を行いながらこれまでの活動を振り返るとともに、更なる市民の学習意欲の高揚と生涯学習の啓発を図る。

また、専門講座においては、講座の企画・運営を担う V スタッフの固定化及び高齢化等の現状を踏まえ、今後の事業の継続性や人材育成の観点から、令和 4 年度 V スタッフ養成講座修了生に事務局企画枠を提供し、新しい人材が市民大学の企画・運営に参画する機会を創出する。

(2) 公開講座

公開講座は、30 周年記念事業の一環として実施し、多くの市民が一堂に会した学習を提供し、受講者の学習意欲の高揚や市民大学の更なる周知を図る。

- ①実施時期 令和 6 年 2 月頃（後期講座閉講後）
- ②会 場 宇都宮市文化会館小ホール等
- ③講 師 著名人等
- ④受講料 500 円～1,000 円程度

公開講座実施の詳細については、令和 5 年 8 月に開催予定の運営協議会において決定する。

(3) 専門講座

専門講座のコース設定は令和 4 年度同様 3 コースとする。

講座実施数については、定員の上限を 60 名とし、例年同様 12 講座とする。また、開講式は各専門講座ごとに実施する。

① コース設定（3コース）

ア 郷土を愛する「宇都宮学」コース

郷土「宇都宮」の歴史や文化，産業，自然，民俗など「宇都宮」の特質や魅力について学び，「宇都宮」に誇りや愛着をもつための講座

※開催回数の半数以上が宇都宮（人・物・歴史等）に関する内容であることを条件とする

イ 今を読み解く現代社会コース

個人や社会を取り巻く環境がめまぐるしく変化する現代社会において，より賢く快適に暮らしていくため，社会の流れを読み解き，暮らしや地域コミュニティに活かしていく知恵を学ぶ講座

ウ 暮らしを彩る文化・教養コース

芸術・文学・科学のほか，先進技術など広範で学術的なテーマから深い教養を身に付け，潤いのある生活を送るための講座

※宇都宮市以外の地域をテーマとした文化・歴史などが対象となる。

② 講座実施数（12講座予定）

ア 前期（5月下旬～7月） 6講座

・内訳 Vスタッフ企画 - 5講座，大学連携 - 1講座

イ 後期（10月中旬～12月初旬） 6講座

・内訳 Vスタッフ企画 - 4講座，大学連携 - 1講座，事務局枠 - 1講座

③ Vスタッフ企画講座の選考方法

ア 募集要項 ⇒ **別紙4**参照

イ 選考会の実施

選考の透明性を確保し客観的な視点から講座を選考するため，専門的な知識を有する委員による講座企画運営選考委員会を実施する。**別紙5**

なお，Vスタッフのスキルアップと，講座企画選考委員会の実施状況の周知・理解を目的として，Vスタッフの希望者に対し，選考委員会の傍聴や模擬審査への参加を認める。

ウ 実施企画の決定

講座企画運営選考委員会の選考結果を踏まえ，運営協議会において決定する。

④ 受講者の決定方法

ア 申込者が募集定員以内の場合

・申込者全員を受講者として決定する。

イ 申込者が募集定員を超えた場合

・講師等との調整により，定員の増員について検討を行う。

・次の人を優先的に抽選を行い受講者を決定する。

- ① 今回初めて市民大学に申込をした人
- ② 前回申込をしたが落選となり、講座をひとつも受講できなかった人
- ③ 今回複数の講座に申込をしており、その講座すべてが抽選となる人

⑥ 館外学習の実施について

令和3年度、令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であり、3密回避の観点からバスでの長時間移動は難しいことから、館外学習は実施しなかった。令和5年度については、新型コロナウイルスワクチン接種が進むことなどを鑑み、学習テーマや内容に応じて、バスによる館外学習を実施する企画を行うことを可能とする。ただし、実施時期の感染症の状況に応じて、実施の可否を判断し、館外学習による感染症拡大が懸念される場合には代替講義を行うなどの対応を検討する。

(4)大学連携

専門講座における市内6大学との連携講座を引き続き実施する。

令和5年度 前期 文星芸術大学（予定）

後期 作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部（予定）

【参考】

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
宇都宮短期大学					○			
宇都宮大学						○		
文星芸術大学	中止 → ○						○	
作新学院大学		○						○
宇都宮共和大学			○					
帝京大学				○				

2 今後のスケジュール（予定）

- 8月下旬 第1回講座企画・運営ボランティアスタッフ連絡会議の開催
 - ・令和5年度宇都宮市民大学専門講座企画募集要項等の説明
- 10月中旬 宇都宮市民大学専門講座企画募集の締め切り、書類審査
- 11月上旬 宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会の開催
 - ・プレゼンテーション審査、企画選考
- 11月下旬 第3回宇都宮市民大学運営協議会の開催
 - ・実施企画の決定

令和5年度宇都宮市民大学専門講座企画募集要項（案）

I 令和5年度市民大学について

別紙 参考 「令和5年度宇都宮市民大学の実施方針について」参照

II 市民大学専門講座の募集概要

次のとおり、専門講座の企画を募集する。

1 募集分野（コース）

（1）郷土を愛する「宇都宮学」コース

（※開催回数の半数以上が宇都宮（人・物・歴史等）に関する内容であるもの）

（2）今を読み解く現代社会コース

（3）暮らしを彩る文化・教養コース

2 募集講座数

各コース合わせて9講座

3 応募資格

宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ（Vスタッフ）の個人又はグループを対象とする。

4 応募方法

（1）応募受付期間

令和4年9月16日（金）から10月7日（金）

（2）提出書類

- ① 令和5年度宇都宮市民大学専門講座応募申込書
- ② 令和5年度宇都宮市民大学専門講座企画書（様式1）
- ③ 令和5年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）（様式2）

（3）提出先

宇都宮市民大学事務局（人材かがやきセンター内）

（4）提出方法

直接、メール又は郵送

※ 応募書類の返却は不可

※ 提出書類の様式について、データによる提供を希望する方は、
college@city.utsunomiya.tochigi.jp あてご連絡ください。

5 講座決定までの流れ

(1) 予備審査の実施

応募された企画を対象に、事務局による応募書類の確認を行う。

(2) 宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会の実施

書類審査を通過した企画は、令和4年11月上旬に、選考委員会によるプレゼンテーション審査を実施する。講座企画運営選考委員会の日程については、応募書類提出後に改めて通知する。

(3) 宇都宮市民大学運営協議会における審議

上記選考委員会の審査結果を運営協議会に報告し、審議の上、採用する企画を決定する。選考結果については、応募グループ代表者に一括して通知する。

6 講座企画者の役割

採用された講座の企画者は、講座企画運営選考委員会の意見を取り入れるとともに、事務局担当者と協力して、講座内容のより一層の充実を図る。

また、講師との調整、広報紙等の校正協力のほか、講座当日の会場設営・進行・後片付けなど講座開催に関する業務を、事務局職員等と協力して主体的に担う。

7 講座企画上の留意点

- (1) 講座回数は、6～7回を標準として8回を限度とする。
- (2) 1回の講座時間は、2時間とする。
- (3) 定員は、60名を上限とする。
- (4) 開催時期について、前期講座は5月下旬～7月、後期講座は10月中旬～12月上旬とし、同じ曜日、同じ時間帯を原則とする。
- (5) 会場は、人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター5階）を使用すること。それ以外の会場を使用する場合は、企画書に必要性を併せて明記すること。
- (6) 受講料は、開講時に事務局が徴収する。（1回500円×講座回数分）
- (7) 受講料のほかに材料費やテキスト代が想定される場合は明記すること。
- (8) 託児サービスは、令和5年度も実施しない。
- (9) 営利目的や特定の政党・候補者の利害に関すること、特定の宗教・教派・教団を支援する内容は認められない。
- (10) 講座の講師予定者と事前に連絡や相談などを行う場合には、講座は企画の段階であり、講座開催が確定していない旨を説明し、講師に誤解を与えることのないよう留意すること。
- (11) 講師謝金は、「市民大学における講師謝金」に基づき支出する。
なお、講師謝金については事務局で判断することから、具体的な謝金等については講師予定者に提示しないこと。（交通費も同様とする。）

- (12) 館外学習については、新型コロナウイルスワクチン接種が進むことなどを鑑み、館外学習を行う講座の企画を可能とする。ただし、専門講座の実施時期に、改めて館外学習の実施を判断し、感染拡大が懸念される場合には講義形式に変更するなど、代替案を検討し実施する。

8 その他

- (1) 募集期間中における応募状況や他の企画内容についての問い合わせは不可とする。
- (2) グループ企画については、通知等をグループ代表者に一括して送付する。
- (3) 令和5年度の講座数は、Vスタッフ企画9講座、大学連携講座2講座、事務局企画1講座の計12講座とする。

【大学連携講座】

令和4年度 宇都宮短期大学、宇都宮大学

令和5年度(予定) 文星芸術大学、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部

- (4) 採用された企画には、企画運営に必要な費用を講座企画運営費として実費を交付する(1講座3万円を上限)。(予定)
- (5) 募集要項に記載のない事項については、事務局に確認すること。
- (6) 応募申込書、企画書(様式1)、企画書学習プログラム(様式2)について、データ提供を希望する場合は、事務局に申し出ること。

令和4年度宇都宮市民大学専門講座応募申込書

令和 年 月 日

別紙の企画書（様式1）及び企画書学習プログラム（様式2）のとおり、
令和5年度宇都宮市民大学専門講座企画募集に応募いたします。

代表者 氏名	
住所	〒 宇都宮市
連絡先等	(自宅) 028 () (FAX) 028 () (携帯) - - (Email)
備考	

※ 個人情報については、宇都宮市民大学事業に使用させていただきます。
目的以外には使用いたしません。

※ 御不明な点は、生涯学習課（632-2648, 6332）担当：篠崎まで
お問い合わせください。

令和5年度宇都宮市民大学専門講座企画書

様式 1

企 画 者	(グループ名がある場合は名称) あさひ			
	企画者氏名 (養成講座修了年度) ※グループ代表者に◎印, 企画代表者に○を付ける			
	①	栃木 太郎 (平成13年度)	5	横川 明子 (平成19年度)
	2	宇都宮 花子 (平成13年度)	6	養成講座修了年度を記入 (平成 年度)
	③	平石 次郎 (平成14年度)	7	(平成 年度)
4	清原 (平成17年度)	8	(平成 年度)	

グループ代表者に◎を付ける

1	コ ー ス 分 類	<input checked="" type="checkbox"/> 郷土を愛する「宇都宮学」コース ※開催回数の半数以上が宇都宮(人・物・歴史等)に関する内容であるもの <input type="checkbox"/> 今を読み解く現代社会コース <input type="checkbox"/> 暮らしを彩る文化・教養コース		
		当てはまるコースの <input type="checkbox"/> を塗りつぶす		
2	講 座 名 サ ブ タ イ ト ル	「今こそ陶芸から学ぶ」 ～世界, 地域, 教育の視点から陶芸について考える～		
3	希 望 期 間	<input type="radio"/> 第1希望 (①)	期 間 ③ 前期 (5月下旬～7月) ④ 後期 (10月中旬～12月上旬)	
		<input type="radio"/> 第2希望 (×)		第2希望がない場合は, ×を記入
4	希 望 曜 日 時 間 帯	<input type="radio"/> 第1希望 火曜日 時間帯 (①)	時 間 帯 ① 午前 (午前10時～正午) ② 午後 (午後2時～4時) ③ 夜間 講座の開催曜日 を第3希望まで 記入 (30分 時30分)	
		<input type="radio"/> 第2希望 月曜日 時間帯 (②)		右欄の 時間帯 の番号 を記入
		<input type="radio"/> 第3希望 木曜日 時間帯 (①) ※水曜日の午前, 午後は一般研修等 により研修室は使用できません。		令和5年度は, 上限60名
5	定 員	<input type="checkbox"/> 30名 <input type="checkbox"/> 60名		
6	内 容	全 7 回 詳細は別紙様式2学習プログラムのとおり		
7	会 場	人材かがやきセンター研修室		

8	受講料	3,500円(7回×500円) 実費徴収 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (目的 陶芸実習材料費 金額: 1,000円) <input type="checkbox"/> 無
9	収支 (見込み)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">講座の回数を記入</div> ○ 受講料収入: 105,000円 (30名×3,500円) ○ 講師謝金: 210,000円 ※講師謝金一覧に基づく、概ねの謝金額(交通費も含む) 【算出根拠】 <u> 全回・大学教授クラス 30,000円×7回 </u> _____
10	スタッフ	企画者 5人 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: 20px;">令和5年度は、運営ボランティアの募集はしない</div>
11	その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・陶芸実習を1回(1日)予定 ・期間については、予定している講師の都合により「前期」にしか設定できません

講座に係る収支を記載

講座の回数を記入

令和5年度は、運営ボランティアの募集はしない

No. _____

様式 2

令和5年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

講座名 サブタイトル	
企画の目的 必要性・効果	
講座概要	
実施に伴う 課題・対応	
アピール ポイント	

回	期日	テーマ	ねらい	
1	月 日 ()			
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークシヨツプ° <input type="checkbox"/> 他 ()	
2	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークシヨツプ° <input type="checkbox"/> 他 ()	
3	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークシヨツプ° <input type="checkbox"/> 他 ()	
4	月 日 ()	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークシヨツプ° <input type="checkbox"/> 他 ()	

5	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学習方法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()		
6	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学習方法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()		
7	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学習方法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()		
8	月 日 ()	テーマ		ねらい		
		内 容		学習方法		講 師
				<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()		

令和5年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

講座名 サブタイトル	今こそ陶芸から学ぶ ～世界、地域、教育の視点から陶芸について考える～
企画の目的 必要性・効果	<p>この講座は、実は「社会貢献活動」へのきっかけ作りを目的とする。東日本大震災以降、強く必要とされている、「人と人の絆」。現在も、被災地に対するボランティア活動などの取組みが多く行われている状況であり、「絆」の再構築を契機として、社会教育のあり方を見直す契機であるとも言われている。</p> <p>この企画では、「陶芸」という文化的・趣味的な講座を前面に出しながらも、各講義の中で、陶芸を例示とした社会貢献活動に対する学びや、「ざぶん展」に参画することで、『地域貢献活動』の経験と『絆』の構築に自然と関わっていくこととなり、また、受講された方々の経験の伝承などをおして、その家族や友人を含め「地域活動」への参加や「社会貢献活動」への参加にも繋がるものと考え。</p>
講座概要	<p>陶芸の歴史は人の営みと共に古く、作陶技術は、時代を経て変遷し、生活に身近な器から心を豊かにしてくれる芸術作品までと、私たちとのかわり方も幅広いものとなり、地域の観光振興や文化交流などに貢献する重要な地域資産ともなっている。</p> <p>本講座では、国際的な視点から陶芸の歴史や文化を学んでいく。多くの被災を受けながらも、今に受け継がれ進化を続ける、陶芸文化の力強さとその魅力に、グローバルな視点で注目していく。</p> <p>また、文星芸術大学が取り組んでいる、陶芸を通じた特別支援教育現場との交流・地域活動等から、「陶芸の力が育む『人づくり』」や「陶芸の力が生み出した『ユニバーサルデザイン』」など、陶芸がもたらす様々な効果・効力を事例から学び、「陶芸」の今後の更なる可能性について学んでいく。</p>
実施に伴う 課題・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「ざぶん展」のバックヤード見学などがあることから、安全確保に十分に努める必要がある。実施に際しては、十分な事前の連絡調整、会場の下見などを事務局とともに実施することにより対応する。また、運営ボランティアの人数確保にも努める必要がある。 ・陶芸の実習を伴うことから、実習費が高額にならないよう、効果的・効率的な実施内容について、講師と調整・検討していく。
アピール ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方に人気がある講師から学べることから、定員を超える申込が期待できる。 ・「陶芸」に興味をもって参加した方に対し、講義や作陶による充足・満足感などの、いわゆる「個人の要望」に応えることはもとより、陶芸を通じた「人との絆づくり」や「社会貢献活動への直接参加」により、地域活動を積極的に盛り上げる人材の育成も行うことから「社会の要請」にも寄与する、大変有意義な講座であると考えている。

企画した講座の趣旨（ねらい）や全コマ受講した後の効果を記入。また、特にターゲットとする受講者等がある場合にはその旨も記入。

講座の概要を明記してください（パンフレット参照）

コマごとの学習の「ねらい」について簡潔に記入

回	期日	テーマ	ねらい	
1	11月1日 (火)	戦乱と陶の歴史 (西洋と東洋の境界線～トルコの風～)	トルコの陶芸文化の力強さとその魅力について学ぶ。	
		内容	学習方法	講師
	月 日	日本と同様に地震の多いトルコでは、陶器も多くの被災を受けている。しかし、長い年月をかけて伝統を受け継ぎ、進化を続けている様子を講師の撮影した映像を交えながら学ぶ。	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 他 ()	○○大学 教授 ○○○○ 氏
		テーマ	ねらい	
		内容	具体的に肩書きがわかるよう記入 【例】 ・○○○審議委員会委員 ・△△病院 理学療法士 ※未定の場合は、○○専門家、大学教授クラス等と記入 <input type="checkbox"/> 他 ()	

コマごとの講義内容について、簡略に記入

具体的に肩書きがわかるよう記入
【例】
・○○○審議委員会委員
・△△病院 理学療法士
※未定の場合は、○○専門家、大学教授クラス等と記入

「審査項目」と「審査基準」

(「プレゼンテーション審査マニュアル」より抜粋)

審査項目は、下表のとおりとする。

1 審査項目

(1)	社会ニーズ	社会の変化や要請，地域の特性や文化など，本市のまちづくりやコミュニティの発展，あるいは市民の郷土理解に資する社会的な視点やねらいが盛り込まれているか。
(2)	市民ニーズ	市民が求める高度で専門的な学習ニーズをとらえているか。
(3)	構成力	設定された講座のねらいに沿った各回の展開や組み立てがされているか，また実習やワークショップなど，学習効果を高めるための工夫がされているか。
(4)	運営力	適切な講師の想定，事前準備や講座運営に対する考え方など，確実に講座を運営していくための体制が整っているか。 <u>ただし，企画応募条件において，講師の確保までは求めないこととしているため，想定講師の受諾については審査に加味しない。</u>
(5)	発展性	講座を契機とするネットワークの形成，学んだことを実践し，生かせる仕組みづくりや導入，リーダー養成に資するスキルの習得など，受講者の行動や考え方の変化を促す効果があるか。

2 審査基準

点数	審査基準
5	とても優れている
4	優れている
3	やや優れている
2	やや劣っている
1	劣っている

宇都宮市民大学運営協議会・講座企画運営選考委員会の委員選任について

宇都宮市民大学運営協議会（以下「協議会」という。）及び宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会（以下「選考委員会」という。）委員の委嘱期間満了につき新たな委員の選任について報告するもの。

1 協議会及び選考委員会の所掌事務等

名称	宇都宮市民大学 運営協議会	宇都宮市民大学 講座企画運営選考委員会
設置根拠	宇都宮市民大学 運営協議会運営要領	宇都宮市民大学 講座企画運営選考委員会運営要領
所掌事務	<ul style="list-style-type: none"> ・企画講座の承認 ・運営に関すること ・予算及び決算の承認 ・共催事業に関すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門講座企画運営（案）の審査（Vスタッフが企画した専門講座の選考をするための組織）
委嘱期間	2年	2年
開催回数	年3回	年1回
委員資格	<ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者 ・生涯学習関係者 ・講座企画・運営ボランティアスタッフ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者 ・生涯学習関係者 ・市職員
委嘱者	学長（市長）	学長（市長）
定員 （現委員数）	10名以内 （10名）	10名以内 （10名）

2 経緯

平成22年4月	要領改正 事務移管（中央生涯学習学習センター→生涯学習課）
平成22年9月	要綱改正（要領策定）、委員改選（協議会組織の見直し）
平成24年9月	委員改選
平成26年8月	委員任期満了
平成26年9月	委員改選 ※以降、2年ごとに委員改選

3 委員選任の考え方

(1) 基本的な考え方

市民大学の事業を円滑かつ効果的に運営するための協議会と、専門講座の企画運営を行う選考委員会、それぞれの特性に対応できる委員を選任するものとする。

委員の選任にあたっては、学識経験者と生涯学習関係者、講座企画・運営ボランティアスタッフ等のバランスを考慮しながら、市民の知的好奇心を満たし、生活に潤いや生きがいを与える講座提供に迫れるようにする。

(2) 協議会委員

学識経験者	市内の高等教育機関との連携を促進するとともに、各校が有する講座開催に関するノウハウを市民大学に活かすため、 <u>各大学等関係者から4名程度</u> を選考する。
生涯学習関係者	社会情勢の変化や市民ニーズを的確に把握するため、マスコミやボランティア関係者、生涯学習センター運営審議会等関係者から <u>5名程度</u> を選考する。
Vスタッフ	講座企画・運営ボランティアスタッフの視点を事業運営に反映するため、 <u>1名</u> を選考する。

(3) 選考委員会委員

学識経験者	市内の高等教育機関との連携を促進するとともに、各校が有する講座開催に関するノウハウを市民大学に活かすため、 <u>各大学等関係者から4名程度</u> 選考する。
生涯学習関係者	社会情勢の変化や市民ニーズを的確に把握した講座を提供するため、マスコミや県関係者から <u>3名程度</u> 選考する。
市職員	(生涯学習課長、中央生涯学習センター所長、会計年度任用職員【人材かがやきセンター支援業務】)

4 次期委員(案)について

- ・在任期間中に大学連携の講座を担当しない大学等は、選考委員会に所属する。

【選考委員会に所属する大学】

	令和2年9月～	令和4年9月～	令和6年9月～
文星芸術大学	○		
宇都宮大学	○		
帝京大学		○	
宇都宮短期大学		○	
共和大学			○
作新学院大学			○

- ・協議会と選考委員会とを兼任する大学は、これまでの状況を踏まえ、輪番とする。ただし、委員は再任することができるため、会長、副会長の継続性を考慮し、割り振る。

【令和4年9月1日からの次期委員(案)】

所 属	改選前		改選後	
	協議会	選考委員会	協議会	選考委員会
帝京大学	○			○
宇都宮大学		○	○	
文星芸術大学	●	◎	○	◎
宇都宮メディア・アーツ専門学校	◎		○	
宇都宮共和大学		○	○	
作新学院大学 (作新女子短期大学)		●		○
宇都宮短期大学	○			○

◎会長 ●副会長

【参考】

・宇都宮市民大学運営協議会運営要領(抜粋)

第3条4 第2項の委員のうち1名は、宇都宮市民大学講座企画選考委員を兼ねるものとする。

・宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会運営要領(抜粋)

第5条2 委員長には第3条第2項第3号の委員(※協議会委員)をもって充て、副委員長は委員のうちから委員長が指名する。

3 委員長は、委員会の会務を総理し、委員会における選考状況及び結果を協議会に報告する。